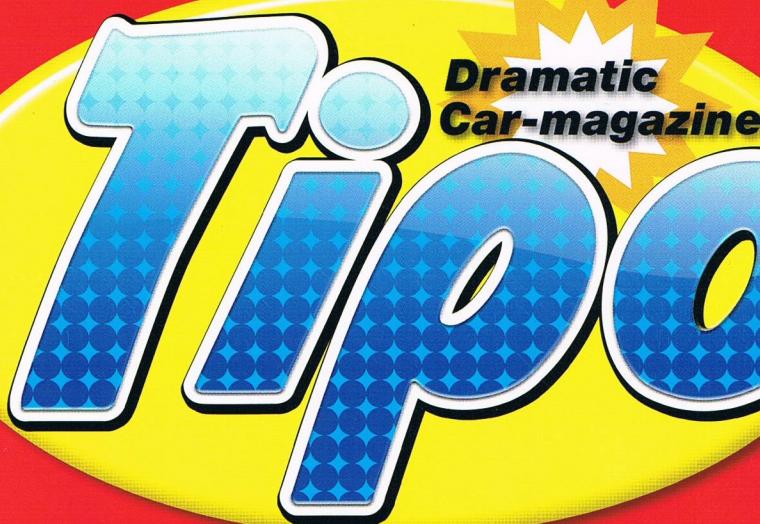


話題のニューモデルからスーパースポーツまで気になるクルマを一刀両断



Dramatic
Car-magazine

2012年4月号 定価660円
No.274 月号 カー・マガジン ティー・ポー
平成24年4月1日発行 毎月1回1日発行
平成3年4月2日 第3種郵便物認定



キャトルvs2CV
人気投票対決!

アレとコレとではどっちがイイんでしょう?

THE キャトル!! 2012 Part 12

気になるクルマはいろいろあるけれど、アレとコレではどっちがいいのか迷ってしまう……。
最近出たばかりの話題のあのクルマの実力は? 新たに加わったあのグレードの魅力は?
100万円台で買うべきチューコ車はどれがイイ? 実力伯仲のライバルをズバッと対決!



ベストワインディング
カーはどれ?

主な内容 ●話題のスポーツ6台が一堂に集合! どれがイイんだ決定戦! ●新たな仲間が加わった! ミニのオープン同門対決! ●家族も自分も満足! ティーポ流ミニバトン選びの決定版! ●話題の国産スポーツ対決! こんな楽しみ方あります! ●100万円台で買える旬なチューコ車対決 ●永遠のライバル! フレンチ・クラシック対決



FIAT 500L
MINI ROADSTER
CITROËN DS4 RACING



Purchase Project
RENAULT MEGANE RS



Sporting
Tipo ALFA 159×TEZZO

思いつきからスタートした ユニークなプロジェクト

TEZZOのプロデューサーである太田哲也氏が、
159のQ4をベースにFR化にチャレンジした
速さではなく、楽しさを追求するために挑んだ
新たな挑戦。その走りを確認する。

文：橋本洋平 撮影：佐藤正勝
取材協力：TEZZO/袖ヶ浦フォレストレースウェイ



橋本洋平

Yohhei Hashimoto

見た目とは裏腹に、モータージャーナリストでは若手に入る橋本さん。その想やかな雰囲気から想像できないほど、熱い走りを披露する。



Rのアルファ・ロメオといえば、それ以外のほとんどどのモデルはFFレイアウトを採用する。派生車種として4WDは存在するものの、テールを振り出すような操作を可能にするFRモデルは存在しない。生産効率、そして高速安定性などを考えれば、その流れも仕方がないところだが、走りを愛するアルファイスターの中には、やはりFRアルファへの思いを抱いている人々が少なからず存在するのではないかだろうか。

その代表的存在が、「存じ太田哲也さん」だ。イタリア車をメインにチューニングやレース活動を行っているTEZZOのプロデューサーとして活躍している太田さんは、159を仕立てて行く過程でFRにしてみたら面白いのでは?と思いつき、駆動力配分改良プロジェクト「DTT-WDチューン(D-Tech Tec by TEZZO)」がスタートした。

とはいえ、相手は電子制御。そう簡単にはプログラムの変更を行えるような代物ではない。159が搭載する4WDシステムは、各種センサーの情報を拾い上げて駆動力配分を行っている。これによりアドバンスして多くの駆動力配分してやろうというのが今回のプロジェクトだ。実際の作業を行う中川さん曰く「DTT ECUがパワーアップだけでなく、信頼性も担保することを証明したい」という思いもありDTT-WDでは、駆動系などの耐久性も機密しながらセーフティアップしているので、現状では完全なるFRにはなっていないません」とのこと。それでも、通常走行時の43・57の駆動配分から何らかの入力があれば8・92の配分へ素早く移行するようセッティングしているそうだ。

早速、その効果を確認するため、ウエット路面の袖ヶ浦フォレストレースウェイを走り出す。すると、まず感じるのは、アクセルをきっかけにリアを振り出す「うなづき」ということだ。完璧なるFRではないためと思われるが、どちらかと云うとまだまだ4WDっぽい



⑤車高調は前後に別タンクを搭載。減衰力はフロント40段、リア40段の調整範囲。
⑥タイヤは前後225/45R18のBS RE-11を装着。ホイールは鍛造のBJ-1B+35。
⑦低ダスト仕様のブレーキパッドは、ストリート向け。



⑧ステアリングホイールは、グリップが程よい太さで握りやすい。
⑨アルファチャレンジに参戦していた名残りで装備されているというオリジナルのフルバケ。今後はラグジュアリー路線を目指すためにノーマルに戻す予定らしい。
⑩TEZZOでは左足が不自由な人でもMTが楽しめるガイドシングルレックスを装着している。前部にあるレバーを握るとクラッチが切れる。
⑪オリジナルのアルミペダルを装備。ブレーキとクラッチもワインナップあり。ガイドシングルレックスを操作するとクラッチペダルは奥に沈む。



⑫市街地での快適性向上を狙い、デジタルと共同開発のDTT ECUチューンにより中低速トルクを増大している。
⑬スロットルコントローラーによりモモ感を解消。
⑭ジェントルなサウンドを楽しめるマフラー。



カーボン製のケースに吸められたオリジナルのエアクリーナーは、バンパー内部にセット。

ところが残っている印象だ。ただ、スティーリングの柔直さだったり、ターンインの向きが変わるようにころは、駆動力配分を変更した結果を感じられた。FRといえどもドリフトばかりが注目されるが、実際にはこんなメリットも存在するのだ。

とはいっても、ドリフトを行った時にどう動くかを見てみたいと思うのが人情ってもの。そこで走り方を変えてブレーキングドリフトに持ち込んでみると、その効果の一端は見えてきた。それはスロットルを入れる方向でドリフト状態が維持しやすいのだ。試しにフルにトルクをかけてみると、最終的には4WDっぽく姿勢がカックンと戻ってしまうのだが、ハーフスロットルでコントロールして行けばドリフトの飛距離を伸ばすことも可能だ。

だが、ハーフキリと言えば速さには、ほぼ寄与していないと思えるこのシステム。それが狙つたところも、おそらくこんなところなのだろう。手放して面白いと楽しめる気分だ。今後、耐久性などの検討が済んだ後には、8:92の駆動力配分に固定したバージョンも立ててもうとクラマを振り回せるようにして欲しい。これから期待が膨らむシステムだ。

ただし、「ここまで走りが楽しめた理由は、ベースとなつたクルマのチューニングレベルが高かつたから」ということを忘れてはならない。別タンク式車高調は、スライドに持ち込む時のスピードが速やかで扱いやすいセットアップ。だからこそ、ウエットであつても躊躇なくブレーキングドリフトに持ち込めたのだ。エンジンも吸排気系とDTT-EUOチューニングによって、中間トルクがかなり豊かになつたからこそ、右足のコントロールに忠実に反応し、その結果が車両コントロール性に繋がつたのだ。



■フロントスポイラーは、高安定性に寄与。
■ナンバープレートの台座もカーボン製。
■サイドステップには、ブレーキ冷却用のダクトが備わる。
■カーボン製のトランクリッドは、スピーディーな開閉が可能。

ALFA 159×TEZZO

実戦で磨いたベストセットがFR化プロジェクトを可能にした



「FRのアルファって面白そう」これが駆動力配分に手を付けた本当の理由だった

——まず、この159のコンセプトを教えて頂けますか？

太田 159が登場した当時は、スポーティさがもっと欲しいと思ったんですよ。そこで足回りや吸排気系、エアロバーンの開発を行い、さらにアルファチャレンジにも参戦するまでになりました。つまり、ある程度スポーティさは突き詰めなんですよ。そこで次は、やはりラグジュアリーさも欲しいとなり。現在はどんなシーンでも満足した走り味が得られる究極のラグジュアリースポーツを作ろうと路線変更しました。

——今日は駆動力配分を変更するというこれまでにない取り組みをされていますが、これもラグジュアリースポーツ路線の一環なんですか？

太田 駆動力配分に手を付けたのは最近のことです。今は試作段階なんですけど

れど、これを始めたきっかけは單純で、「FRのアルファがあったら面白そうじゃない？」っていう思いつきだったんですよ。FRといえばドリフトができるのが一番の魅力だと思うんですが、話はそれだけじゃないんです。ハンドリングの自然さとか、スロット

ルを入れた時の乗り味だと多くの魅力があるじゃないですか。それがラグジュアリースポーツというコンセプトにも繋がると思うんですよね。

——足回りについてはどのような考え方でセットアップしていますか？

太田 現在は別タンク式の車高調キットを入れているんですが、この足回りのメリットはガス圧を低圧化できるところなんですよ。おかげで、レースシーンで使うことができるスプリングをセッティングしてスポーツ走行時の減衰力はしっかりとしながらも、日常域では走

り出しからマイルドな乗り味にすることができました。スポーツとラグジュアリーの両立といった感じですね。そして、今回トライしているFR寄りの駆動力配分なら、さらに足回りをソフトにしてもスポーツ走行時に耐えられるでしょう。以前のFF的駆動力配分では足回りをかなり引き締めないと曲がらないイメージだったんですが、今はその必要性をさほど感じなくなりましたからね。駆動力配分の変更により、今後さらにラグジュアリースポーツの領域を拡大できるでしょう。



太田哲也
TEZZOのプロデューサー

太田哲也率いるイタ車のプロ集団

TEZZO

テツゾ

住所：神奈川県横浜市都筑区北山東2-9-1
電話：045-948-5535
HP：<http://www.tezzo.jp>

国内外の一流サプライヤーと手を組み、太田氏が描く理想のクルマ像を追求するTEZZO。速さだけでなく楽しさや快適性を視野に入れたクルマ造りがモットーだ。